



靖國神社境内の「神雷桜」



第150号

公益財団法人 特攻隊戦没者
 慰霊顕彰会
 編集人 金子敬志
 発行人 石井光政
 印刷所 株式会社 SGネクスト
 ホールディングス

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・副理事長 岡部俊哉 2

各地慰霊祭等報告

第45回特攻隊全戦歿者慰霊祭・・・・・・・・・・編集長 金子敬志 4

第三十一回東雲飛行場戦没者慰霊祭・・・・・・評議員 倉形桃代 10

神雷部隊慰霊祭理事・・・・・・・・・・理事 鮎田英一 12

宮崎県特攻勇士之像慰霊祭・・・・・・・・・・理事 大穂その井 14

会員等投稿

多田野語録・・・・・・・・・・・・・・・・・・会員 多田野弘 16

出逢いの人間学・・・・・・・・・・ 人生の大事 17

立志・立国・・・・・・・・・・ 丹田常充実 18

特攻隊員へのインタビュー・・・・・・・・・・ 中川法宏 19

沖縄海上特攻4・7矢矧・・・・・・・・・・ 飯屋杉雄 20

人間爆弾櫻花 神雷部隊722航空隊・・・・・・ 浅野昭典 25

連載 山ある記26・・・・・・・・・・ 池田康博 29

顕彰譜(15)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

芸欄 歌俳柳の広場

短歌・俳句・川柳・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

広告 神風特別攻撃隊出撃80周年慰霊祭参列ツアー・・・・・・・・ 35

事務局からの報告等

一 令和5年度事業報告書・・・・・・・・・・・・ 36

二 寄付者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

三 新入会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

四 会員訃報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

挿絵提供 空自OB 宇山氏

「巻頭言」

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

副理事長 岡部 俊哉



令和6年1月1日の石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震の発生に伴い、当該地域の防衛・警備等を担任する第10師団が主力となって災害派遣を実施し、それは現在（4月初旬）も継続しています。

その様な中、1月7日に「令和6年第1空挺団降下訓練始め」が千葉県の習志野演習場で実施されました。訓練については、我が国の現下の安全保障環境を反映した島嶼防衛のシナリオを凝縮して演練され、空挺作戦、ヘリボン作戦、島嶼守備部隊の上陸及び他国軍の来援が一連

の状況で演練され、例年通り防衛大臣が視察されました。米陸軍空挺部隊を始めとする7カ国軍参加による共同訓練という位置付けも含め、見事な訓練でありました。

一方で残念なことに、この度の能登半島地震災害対応中において本訓練を実施したことや防衛大臣の視察に関して、報道やSNSを通して批判の声が上がりました。

これは、今に始まったことではありません。13年前の東日本大震災時にも、災害派遣待機等で残留している部隊の射撃などの訓練実施、陸上自衛隊の各職種学校における教育の継続等に対して、「何を遊んでいるのだ。災害現場に行け。」との多くの苦情があったのです。

何故、自衛隊は訓練に、そしてその継続実施に拘るのでしょうか。

陸上自衛隊の射撃訓練を例に取ります。隊員個人が携行する小銃ですが、「見る」、「判断する」及び「撃つ」を個人（眼・頭脳・身体が一体）が実施して、目標に弾丸を当てます。このために、各人は射撃に必要な「姿勢」・「照準」・「撃発」等の訓練を射撃予習（実弾のない訓練）・実弾射撃訓練と、積み上げつつ反復して演練し練度を上げます。

更には、野戦特科部隊が装備する榴弾砲や普通科部隊の迫撃砲は、部隊で射撃をするものです。これは「前進観測班」、「射撃指揮所」、及び「砲列（砲）」の三者に分かれて活動します。「前進観測班」は第一線部隊と行動を共にして、射撃の要求、射弾の観測・修正等を「射撃指揮所」に伝達します。これを受けた「射撃指揮所」では射撃方向・角度、発射装薬の量、弾数、射撃の時間等射撃に必要なデータ（射撃諸元）を「砲列」に送り、射撃を命じます。射撃諸元を受けた後方の陣地に展開した「砲列」部隊は、諸元に基づいて砲を操作して射撃を実施します。

「見る」、「判断する」及び「撃つ」すなわち眼・頭脳・身体がバラバラにかつ遠く離れた場所に分散して任務を遂行するシステムなのです。

この三者が連携・一体化して、あうんの呼吸で砲を自由自在に操り、必要な時期・場所に、正確な砲弾を必要数発射できる様にしなければなりません。このためには三者の各部隊の隊員一人一人がその任務を完遂すべく演練（各個訓練）し、更に三者がそれぞれの部隊として任務を完璧に遂行できるよう演練（部隊訓練）します。それができて初めて三者合同の

訓練が可能となりますが、有機的な連携・一体化のためには多くの時間を費やして演練することが必須です。こういった訓練を反復して練度を向上させて、任務を完遂できる特科部隊や迫撃砲部隊を作り上げるのです。ここで忘れてはいけないのは、隊員一人の練度不足・不作為・ミスや部隊のちよつとした任務不履行が全体の連携・一体に穴を開け、引いては任務失敗や取り返しがつかない重大な事故に繋がるということです。

加えて陸上自衛隊全般という視点では、野戦特科のみならず、訓練された普通科、戦車、施設科等の戦闘部隊やこれを支援する部隊との協同、更には海・空自衛隊、米軍等の他国軍隊との共同連携にまで昇華させなければなりません。

また部隊は人事異動や定年により、部隊指揮官も含め隊員が入れ替わり、新隊員も入ってきます。部隊はこれらの変化も柔軟に受け入れ、部隊としての練度を落とさぬよう寸暇を惜しんで訓練（各個訓練・部隊訓練）を継続し、部隊を鍛え続けて行かねばならないのです。この様に有事対応の厳しい訓練を積み重ねているからこそ、災害発生においても部隊として即応して、整齊・的確に対応できるのです。

大正12年9月1日に発生した関東大震災において、災害対応の指揮をした関東戒厳司令官は隷下部隊に対し、教育訓練は軍隊の本務であることを前提に、機を捉えて訓練を実施して平素の練度を維持すべく訓示しました。それを受けて災害派遣中の部隊にあつても活動に支障のない範囲で、戒厳令適用地域外へ転地して射撃訓練等を実施したとされます。

自衛隊・軍隊は国の防衛警備に任ずる武力集団として、今今の任務を全うすることは当然ですが、その上で将来の脅威に對してしっかりと備えることも重大な任務なのです。

そういった観点から、いかなる状況においても訓練の意義・必要性は何ら変わらないことを、国民の皆さんには是非ともご理解いただきたいと切に願います。

*編集部注

岡部俊哉副理事長略歴
第1空挺団団長、第6師団長、北部分面総監等を歴任、
第35代陸上幕僚長



第45回特攻隊全戦没者慰霊祭

編集長 金子 敬志

一 慰霊祭

令和6年3月23日(土) 11時～12時

於 靖國神社拝殿・本殿

式次第

国歌斉唱

トランペット

堀田 和夫
町 ともみ

修抜、献饌 祝詞奏上

祭文奏上 理事 長

献 吟 一誠流

龍 笛

歌「ふるさと」「さくら」

ソプラノ歌手 伊吹 笑美子

全員斉唱 「同期の桜」「海ゆかば」

トランペット

堀田 和夫
町 ともみ

昇殿参拝

玉串奉奠

黙 禱

「国の鎮め」

トランペット

堀田 和夫
町 ともみ

令和6年3月23日(土) 11時より、靖

國神社において第45回特攻隊全戦没者慰

霊祭が催行され、御遺族22名を始め御来

賓、戦友、一般会員等を合わせ177名

の方々が参集し、英霊に哀悼の誠を捧げ

た。

第31回の慰霊祭から実施日が3月末の最終土曜日となり、今年度もその予定であった。

しかし、直会も実施するよう計画した所、最終土曜日は会場が使用できないので、止む無く1週間早い斎行となった。

通例は3月末が桜の開花時期であるが地球温暖化の表れか、年々開花が早くなる傾向にあり、今年も早く咲くのではないかと予想されていた。実際、3月中旬には所によつては気温が25℃を超える夏日になり、早期の開花が予想されたが、その後、急激な寒の戻りがあり、23日当日はまだ開花とはならなかった。

しかし、靖國神社内には東京の桜の「標本木」があり、また桜が沢山あるので、開花を見たいと多数の観光客が訪れ境内は賑わっていた。



その中、参集殿前に設けられた受付には時間が近づくにつれ参加者が次々に集まって来た。

お集まり頂いた参加者の皆様に昇殿前に各担当者から参集殿内控室で説明が行われた。



参加者への説明

説明終了後、拝殿に向かい全員着席、慰霊祭開始を待った。

時間となり、堀田和夫氏とご令嬢の町ともみ氏との親娘のトランペット伴奏に合わせた国歌「君が代」斉唱により慰霊祭は開始され、修祓、献饌、祝詞奏上に続き、岩崎理事長が祭文を奏上した。

『祭文』

特別攻撃隊で戦没された、ご英霊の皆様
様に申し上げます。

今年も、ここ靖国神社の社頭において、
お参りすることが出来ますことに、心か
ら感謝申し上げます。

今年は昭和19年10月25日、フィリピン
のマバラカット西飛行場から、関大尉以
下5名の敷島隊が発進、レイテ島沖の米
艦艇に特攻攻撃をして散華されてから80
年が経ちます。

皆様方は、この我国の存亡の時に際し、
ご家族、ふるさと、そしてこの日本を守
るために、空に、海に、陸に、自らの身
を賭して、散華されました。

正に、日本人の持つ崇高かつ究極の
「利他」の精神を、身をもって示された
ものです。

この精神は、我国のみならず、人の世
に、燦然と輝く、語り継ぐべき偉業とし
て、残されてきております。

私達は、皆様方に対し、心からの感謝と、
敬意を奉げます。

現在、世界が混とんとした情勢となっ
ています。2年前に始まったロシアによ
るウクライナ侵略は先が見通せません。

また、昨年10月にはイスラエルとパレス
チナの宗教戦争ともいうべき戦いが始ま
り、これも終息のめどが立っていない状
況です。日本を取り巻く環境も、中国の
軍事力急拡大や、北朝鮮の弾道ミサイル
等の発射に見られる様に、決して安心で
きるものではありません。

今後も、民族、宗教、主義主張、国境
等による争いや戦争が、絶えることはな
いと予想されます。また、その戦いは、
宇宙、サイバー空間にまで拡大しており
ます。

このような環境を受けて、日本政府は
戦いを防ぐための抑止力向上の一環とし
て、防衛力の強化に乗り出し、予算も倍
増する処置を取っています。最大の抑
止力は、皆様方が身をもって示された、自
分の国を護るといふ、国民の意思の強さ
だと思えます。

皆様は、80年前、祖国日本の不滅と最
後の勝利を確信し、より良い日本を建設
すべく、国家国民のために一身を捧げら
れました。皆様の示されたこの精神こそ、
常に国を護り、国を興す底力であり、身
を以て範を示されたものと信じてやみま
せん。皆様方のお陰で、現在の平和で繁
栄した日本があることに、改めて、心よ

り感謝申し上げます。

私たちは、これからもご英霊の皆様の
志を守り、ますます努力し、日本の平和
の維持、発展と文化の継承に努める所存
です。

在天のご英霊の皆様、どうか私達をお
見守りください。そして、お導き下さい。
皆様方の、安らかならんことをお祈り申
し上げ、祭文といたします。

令和6年3月23日

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂



岩崎理事長による祭文奏上

祭文奏上に続き、一誠流 竹内一香氏
龍笛 安藤韶盟氏により、次の2首の献
吟が行われた

○第二十二振武隊 西長 武志 作
(昭和20年4月6日 沖縄附近で戦死)
とこしえに皇国の榮^{みくに}祈り^{さかえ}つつ

桜の花と共に散りなん
○第4 神雷桜花隊 富内 敬二 作
(昭和20年4月14日 徳之島東方で戦死)
身はたとへ南の空に朽ちぬとも
やがて九段の花と散るなん



ソプラノ歌手伊吹笑美子氏による献歌



竹内、安藤氏による献吟



回廊を歩いて本殿に向かう参列者

終わって、ソプラノ歌手伊吹笑美子氏
による「ふるさと」と「さくら」の献歌、
続いて堀田和夫氏・町ひとみ氏によるト
ランペット演奏に合わせて全員が「同期
の桜」「海ゆかば」を斉唱した。
以上で拝殿における行事が終わり、参
列者は本殿に昇殿して玉串を奉奠して、
参拝した。
最後に、堀田和夫氏・町ひとみ氏によ
るトランペット演奏「国の鎮め」に合せ
て黙祷を捧げて慰霊祭は終了となった。

二 特攻勇士之像献花式

昇殿参拝後、遊就館前にある「特攻勇士之像」に対する献花が行われた。

この日は雨模様で、拜殿に上がった頃にはやや強い雨が降っていて献花の際の雨避けについて心配されたが、献花が行われる頃には殆ど雨は止んでいて、献花は支障なく実施出来た。



献花する代表お三方

献花は参列者を代表して、御遺族代表

臼田智子様（第23振武隊 伍井芳夫中佐御令嬢）御来賓代表 埼玉偕行会会長柳澤壽昭様 当頭彰会代表 藤田幸生会長のお三方が実施し、参列者一同は代表に合せて礼拝した。

以上をもつて慰霊行事は全て終了し、靖国会館に於いての直会に移行した。

三 慰霊祭直会

令和6年3月23日（土）
12時40分～14時30分

於 靖国会館2階「九段の間」 「田安の間」 「玉垣の間」

慰霊行事終了後、「靖国会館」会館2階の「九段の間」「田安の間」「玉垣の間」において直会が開催された。

コロナ渦のため直会は長く開催されていなかったが、今年はコロナ渦も収まったので、令和元年以来、5年ぶりの開催となった。

石井事務局長の開式の辞に続き岩崎茂理事長より挨拶が行われた。

ご遺族紹介及びご来賓紹介、佐藤正久参議院議員並びに一般財団法人日本遺族会会長溝落敏栄様からの慰霊電報披露に続き、ご来賓を代表して、靖国神社権宮司村田信昌様によるご挨拶が行われ、その後、懇談・会食となった。

時間が経過し、話は尽きなかったがお

開きの時間が迫って来たので、慰霊祭においても献歌されたソプラノ歌手伊吹美子氏による追悼歌「荒城の月」と「君が代」が独唱された後、堀田和夫氏・町ともみ氏によるトランペット演奏に合わせて全員により「海ゆかば」を斉唱が行われて直会の予定を終了、石井事務局長の開式の辞により直会はお開きとなった。



直会開始にあたって挨拶する岩崎理事長

この度、第45回特攻隊全戦没者慰霊祭の開催にあたり、会の皆様方のご尽力に敬意を表します。

国家に殉じた英霊が安らかに眠られますことを、お祈り申し上げます。

小職も常に特攻隊全戦没者に想いを馳せ、日々の公務に当たって参ります。

合掌



“ヒゲの隊長” こと
参議院議員

佐藤 まさひさ

102-0072

東京都千代田区飯田橋1-5-7 東専堂ビル2階
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

3月23日 齋行

理事長 岩 崎 茂 様

〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-5
九段会館テラス4階

一般財団法人 日本遺族会

3月20日

午前 午後 なし

翌日以降の配達日指定をされた場合のみ配達時間帯希望が可能です。

TEL (03) 3261-5521

① ② ③ ④ 普 慶 弔 ⑤

第四十五回特攻隊全戦没者慰霊祭のご齋行にあたり、平和の礎とられました尊い御霊に対し、謹んで哀悼の意を表します。

我が国の今日の平和と繁栄をもたらしたものは何であつたのか、今、改めて思う時、世界に目を向ければ未だに紛争が絶えず、ロシアのウクライナ侵略は三年目を迎え、パレスチナのカザ侵攻など、罪のない大切な命が失われ続けています。

時代の變化の中で、苦しみや悲しみはそれぞれあれど、ご英霊の皆様は二度と私たちのような遺族を出してはならないという固い決意と困難を乗り越えていく力を後世に残されたのだと、私も戦没者の遺児の一人として改めて感じております。

平和の尊さ、命の大切さを後世に語り継いでいかなければなりません。

皆様方には「平和を語り継ぐ伝承者」として、今後とも末永くお力添えをいただければ幸いです。

結びに、ご参集の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

一般財団法人 日本遺族会
会長 水 落 敏 栄

第三十一回東雲飛行場戦没者慰霊祭

評議員 倉形 桃代

令和5年10月29日(日)午前11時より、能代鎮守八幡神社(秋田県能代市柳町)特攻勇士之像前に於いて、東雲(しのめ)飛行場戦没者慰霊顕彰會(代表・小野 立氏)主催、第31回東雲飛行場戦没者慰霊祭が斎行された。当日は雨もあがり、神社境内は、赤や黄色の落ち葉に彩られていた。台座に「留魂」と金文字で



28柱のご遺影が飾られた祭壇

刻まれた特攻像前の祭壇には、お供えと共に28柱(殉職者18柱を含む)のご遺影が飾られていた。穏やかな秋空の下、八幡神社宮司・淳城(ていじょう)英夫宮司はじめ、参列者は10名と少なかつたが、慰霊祭は粛々と行われた。喇叭譜「國の鎮」に合わせて黙祷、開式の辞、國歌二唱、修祓、降神の儀、献饌、祝詞奏上、英霊御芳名奉唱、参列者全員による玉串奉奠、撒饌、昇神之儀、「國の鎮」齊唱。主催者挨拶では小野代表が「今年陸士60期の武田安一代表が、初めて欠席しましたが、天気ももって、英霊は喜びになったと思います。お祀りは公的にやるのが筋。忘れ去られてしまわないようにお祀りを続けます。」と、力強く語られた。その後「海ゆかば」を二唱している時、風もなく静かだった中、落ち葉がはららと祭壇の上に舞い落ちて来た。まるで英霊が「頼むよ」と語りかけたかのように・・・閉式の辞を以て慰霊祭は滞りなく終わった。その後、場所を移して直会が和やかに行われた。



旧料亭「金勇」

の殿堂を後世に残したい」と、金勇4代目当主金谷 孝氏が能代市に寄贈され、現在は国登録有形文化財となっている。大東亜戦争中は陸軍に徴用され宿舎となり、一階の小部屋は将校の部屋、中広間は下士官、二階大広間は兵士達が使用した。(「金勇のあゆみ」より)どの部屋も素晴らしく拘りのある造りで、英霊が過ごした同じ空間に立ち、丁寧なご案内を頂けて感無量なひと時であった。飛行訓練、とりわけ特攻隊の訓練は厳しいもので、地上に直径十メートル程の

その御霊を弔う為に、神社から5キロ程離れた場所にある、曹洞宗 延命寺（能代市竹生）の境内に平成7年、東雲飛行場を語る会によって「東雲飛行場慰霊碑」の木碑が建てられ、慰霊祭が行わ



東雲飛行場慰霊碑

円を描き、その円または建物を目標に見立てて急降下訓練を繰り返す。たとえ優れた技量の操縦者であっても、一瞬の判断の遅れで地上に激突してしまう過酷なものであり、多くの殉職者が出た。（「わたしの金勇物語」より）



五能線「飛行場踏切」

れているとのこと。現在、飛行場があった一帯には学校や畑が広がっているが、当時の面影を残す遺構も多く残っている。今回の旅で、一か所だけその場所を見つけた。五能線の踏切に残る「飛行場踏切」である。どうかこの名称が当時の歴史と共に、後の世まで残りますようにと願わずにはいられなかった。

秋田県特攻勇士の像



逸話、土地の歴史をご家族の中でしっかりと語り継いでいらつしやる。故郷を大切に自慢に思ってお気持ちが会話の端々から伝わって来る。参列者は少なくても、心の籠った慰霊祭に参列の機会を頂いた、このご縁を大切に繋いでいきたい。

神雷部隊慰霊祭

理事 鮎田英一

令和6年3月21日(木)、鎌倉建長寺正統院における湘南水交会主催の「神雷部隊慰霊祭」に参列しました。

神雷部隊が、有人ロケット推進滑空爆弾「桜花」、懸吊母機・一式陸攻及び援護戦闘機による編成で、九州鹿屋基地から初出撃したのが昭和20年3月21日でした。この日の桜花攻撃隊は、壮図むなしく全機が撃墜され、野中五郎隊長以下160名が戦死したと伝えられます。以後、沖縄攻防戦から終戦間際に至るまで神雷部隊は、桜花攻撃隊並びに零戦を主とする爆装戦隊により出撃を重ねました。

昭和40年3月21日、正統院先代御住職が神雷部隊の隊員であった縁から、「海軍神雷部隊戦友会」により境内の洞窟内に神雷戦士の塔「桜花の碑」が建立されました。除幕式典には、戦時中、鹿屋基地において従軍作家の立場で隊員を間近に目撃した山岡莊八氏、川端康成氏も参列しており、慰霊碑奥の銘板には神雷部隊戦没者829名の芳名が刻まれています。

今年の慰霊祭は、4年ぶりに一般の参加者を得て、慰霊碑前で開催されました。

「神雷戦士之碑」



桜の蕾はまだ固く閉じ、晴天ながら北風が強い一日でしたが、慰霊碑洞窟のある山崖によって風がさえぎられ、碑前は春陽に満たされていました。始めに神雷部隊の英霊に対して、参列者34名による黙祷が捧げられたのち、真木信政・湘南水交会会長により追悼の辞が述べられました。次いで、雪文庸(すすぎぶんよう)・正統院御住職と御子息による読経が上げ

られる中、参列者総員による焼香が行われました。慰霊祭は、慰霊碑前で記念写真撮影して終了し、参列者は本堂に移り恒例の茶話会となりました。

茶話会では真木会長のご挨拶、遺族関係者のご紹介が行われたのち、渡邊・湘南水交会役員により、神雷部隊初出撃の模様を伝える隊員の手記が朗読されました。手記は、湘南水交会が大阪の古書肆から入手した『こんにち今日の話題 戦記版 神雷部隊記』という昭和30年発行の小冊子に収録されており、戦後間もない時期に部隊生存者の貴重な体験が綴られたものです。出撃当日に岡村司令と野中隊長が言葉を交わす場面や、隊長機を先頭に轟音とともに部隊が離陸する情景が力強くも切々と語られ、一同瞑目傾聴して、暫し往時に思いを馳せることができました。

1時間余りの和やかな懇談ののち、御住職から神雷部隊慰霊祭を今後とも世代を越えて末永く斎行していきたいとの心にしみる御挨拶があり、参加者は来年の再会を口々に誓い合いながら建長寺を後にしました。



慰靈祭後の集合写真



本堂における茶話会



茶話会で紹介された小冊子

宮崎県護國神社「特攻勇士之像慰霊祭」

理事 大穂その井

令和6年3月28日(木)午後、宮崎県護國神社で執り行われた「特攻勇士之像慰霊祭」に、専務理事兼事務局長の石井光政氏と共に参列したので報告する。

野鳥たちの楽園と呼ばれる宮崎神宮の森の中にある護國神社の境内に特攻像は建立されている。碑文には、『純真にして気力に満ちた腕利きの精鋭や若き勇士が我が身命を捧げて出撃し、散華された』とある。

式典には地元出身の国会議員をはじめ自衛隊宮崎地方協力本部、陸上自衛隊えびの駐屯地の現役自衛官、偕行会、隊友会も含め30名が参列。

霧雨の中、神官が奏でる雅楽の調べが空気を澄み渡らせ、清々しい感覚に包まれた。

宮崎県出身の特攻隊員は、陸軍28名(航空機16名、空挺・戦車11名、海上挺身1名) 海軍49名(航空機40名、特殊潜航4名、回天2名、震洋3名)の計77名となる。

ここに特攻顕彰会発行の『特攻隊員遺詠集』に掲載された宮崎県出身の陸軍・海軍おふたりの特攻隊員の遺詠をご紹介します

する。

【遺詠】

『還り来ぬ身にしあれども父母に告げず
に行かんやまと男子は』

陸軍曹長 新藤 勝命

享年27歳 昭和20年6月15日歿

12年兵 義烈空挺隊奥山隊

熊本県健軍飛行場より発進

沖縄県中飛行場(現在の嘉手納飛行場)
にて戦死

宮崎県出身

『身は碎け屍は桜花と散らうとも霊や皇
国の空を守らん』

海軍一飛曹 杉本 徳義命

享年19歳 昭和20年4月3日歿

乙種飛行予科練習生17期(乙飛17期)

天一号神雷第2建武隊

零式艦上戦闘機(零戦)に搭乗

鹿児島県の鹿屋基地より発進

奄美大島南方にて戦死

宮崎県出身

ここを訪れる方々が、特攻像をご覧になり、特攻隊の歴史を知り、若くして命を落とした勇士たちに思いをさせて下さることを心から願う。



宮崎県特攻勇士之像



神事の様子



特攻像の前に設けられた祭壇

多田野語録
出逢いの人間学

会 員 多田野 弘

表題は、出逢いによってしか得られない、「人間の存在と本質」を問うている。私の人間は、魂の存在に出逢ったことに始まっている。それは、青年期に南方の戦場で得た感動の出来事である。

私の1944年1月のラバウル基地には、毎日、100機に余る戦爆連合の空襲があつた。当初は待機していた200機余の我が戦闘機隊が、一斉に邀撃に飛び立ち撃退していた。戦闘機隊を出発させた後、私たち地上勤務員は滑走路の傍につくった土盛りの防空壕に退避するのだが、B24が落とす1トン爆弾には、壕もろとも吹き飛ばされていた。だが、戦場での死は常であり、少しも怯むことなく勇敢に戦っていた。毎夜、「明日は俺の番かも知れんぞ」と、自分に言い聞かせて眠った。

ある深夜、心の奥から「びくびくせず、に潔く死ね」という声が聞こえてきた。ハツとして「そうだ！私の死は国に捧げた崇高な行為で、男子の本懐ではないか」と思った途端、躊躇なく死を決意する事ができた。それまで死の恐怖に悶々としていた心が晴れ渡った。以来不思議に

も、飛び交う弾雨の中を平気で動き回れるようになっていた。この私の豹変は、きつと魂の仕業であり、私自身が魂の存在であると直感した。同時にそれは、私の生涯の生き方を決定づけることになった。

それにしても、生きている私に死を決意させた魂の力は、どうしてつくられたのか不思議に思えた。それは、今生きている動物・植物・人間のすべては、宇宙の進化の意志（神）によってこの世に生を与えられたものであり、私たちの生命も魂も、大自然の摂理・宇宙の意志を帯びている分身である。だからこそ、偉大な力を發揮できたのだと思つた。しかし、私の魂に関する認識は、戦場での直観であり、錯覚かもしれなかつた。幸いにも戦後、3賢人の書に出逢い、私の認識が正しいことを知らされた。

その一人は、ロシアの文豪トルストイである。その書「人生の道」に、『魂は肉体に宿り、心と身体を統御・支配する』とある。この言葉に私は、目から鱗が落ちる思いがした。魂が主人で、心と身体は魂の具現化に必要な従者・道具だといふ。続いて彼は、「我々にとつて一番尊いのは、独立した人間になって、他人の意志に左右されず、自分の意志に従つて

生きることである。そのためには、『魂』に仕えて生きなければならぬ。『魂』に仕えて生きる為には、肉体の欲望を征服しなければならぬ。故に人間の真正の生活は、低劣な動物的本性から『魂』の生活に変わるための漸進的自覚以外にない。その自覚はその人の思想如何によつて決定される。即ち『魂』のささやきが知らせる思想によつて、初めて決定される。そしてその後の凡ての行為は、召使の如くその思想に仕え、その意志を遵奉する。」という。

トルストイのこの言葉は、戦後に私が実行している魂主導の生き方そのものであり、大いに自信を深めることができた。さらに、彼は自分の豪華極まる生き方の中に幸せはあり得ないと、82歳のとき2回家出をし、野たれ死にした。自分が唱えている崇高な魂の持つ思想を、自らの死をもつて明示した。

もう一人の出逢いは、ビクター・E・フランクルの書「夜と霧」である。オーストリアの精神医学者だが、ユダヤ人のためドイツのナチに捉えられ、アウシュビッツ収容所に送られ、妻はガス室で殺された。彼は、収容所内で不思議な光景を目撃した。囚人は逐次呼び出されガス室に送られるので、いつ呼ばれるか戦々

恐々としていた。

呼ばれた中の一人は昂然として国歌を歌いながらガス室へ入っていき、また、呼ばれた若者の身代わりを買って出た不可解な老人もいた。彼はこれらを見て感動し、このような崇高な犠牲的精神は人間のどこから出ているのかを考えた。後にそれは、超越的無意識の行為であり、東洋でいう魂であると発表した。

更にもう一人の出逢いは、古代ギリシャの哲学者ソクラテスの言葉である。彼は紀元前450年、日本は縄文時代で堅穴式住居に住み、日々食べることしか考えなかつた頃である。既に彼は、「魂は不滅であり、真の自分は魂である。徳を養い善を行え」と、アテネ市民に説いて回っていた。その頃日本で「徳とか魂」を説く人は皆無だった。彼が説いた「真の自分は魂である」は、私の最初の直観と同じだ。

戦後先哲から、人間学の真髄である魂の存在を知らされた私は、魂に従って生きようと固く心に誓った。戦後の生活は厳しかったが、私にはむしろ天国に思えた。生命の危険が全くなく、生きていることだけで喜びがあった。やがて、その平穏な環境に違和感すら覚えるようになった。同時に、海軍での規則正しいスタン

バイの生活が偲ばれ、矢も盾もたまらず始めたのが、アラームなしの5時起床である。それが今日まで63年間続いており、103歳の私をつくったのかもしれない。人間にはある程度の緊張が不可欠なのだ。自発的な早起きは起床後のジョギングを生み、ジョグ後に年間を通して屋外のプールで水泳、続いて元日の寒中水泳となり、それは93歳まで49年間続いた。他から見て、よほど意志が強いからだと思うだろうが全く違う。魂に従っただけであり、やり終えた後の爽快感も続ける原動力になっている。しかも、自分を統御・支配出来た克己のもたらす悦びは最大であった。人間学真髄の魂の存在を知り、3人の先哲の書に出逢ったことが、私に奇跡の人間力をつくってくれたのは確かであり、感謝してやまない。命ある限り、魂に仕え、独立自尊の道を歩んでいきたい。

多田野語録
人生の大事

会員 多田野 弘

表題は、私たちの人生にとって一番大事なことは何かを問うている。だが、すぐこれに答えられる人は少ないだろう。自分の人生にとって大事なことは山ほどあると思うが、「最も大事なことは何か」

を答えるのは難しい。

言わずもがな、それは「自分は何のために生きるのか」という目的を持つことであろう。人生を真剣に考えるなら、避けて通れない課題である。その内容はどうであれ、少年期から老年期に至る各年齢層にふさわしい目的や目標があるはずである。それらは各人が持つ、人生観・価値観や環境によって決まってくる。

いずれにしても、自らその目的を達成するには、心（理性・知識）ではなく、魂からの強い意志がなければ不可能であることは前回に述べた。しかしながら、強い意志さえあれば、いかなる困難も達成可能だとは言えない。魂から発する意志は、命がけて精神を集中するので、瞬発的である。長時間持続することは難しく、何か別の要因も必要ではないかと考える。私は誰もが忌避するであろう常識外れの行動を、長年継続してきた。例えば、元旦の海での寒中水泳を、44歳から93歳まで49年間、毎年続けてきた。他から見てもこの不思議な行動は、単に強い意志さえあればできたのではない。先に述べた別の要因が加えられている。

要因とは、克己から得られる素晴らしい快感（悦び）ではないかと思える。自分をコントロールできた時の、満足と自

信は、いかなる悦びよりも勝っていた。それは脳裏に強く刻まれ、再現したい想いが身体を衝きあげるようになり、継続を可能ならしめた。克己から生ずる快感が、如何に大きいかが分かる。

こうした心境は、登山家にも見られる。危険の多い峻険な山を、汗水たらして、頂上を極めた快感は、それまでの苦難を吹きとばしてしまっている。彼らは次の機会には、より危険な険しい山を選ぶに違いない。

登山家に限ったことではなく、誰にも同じ精神構造が備わっている。その証拠に、克己の日々を過ごしてきたことが、私の充実した人生と103歳の健康体をつくってくれた。憚りながら、「悔しかったら真似してみろ」と、読者の奮起を促すや切である。命(いのち)に感謝し「自分は何のために生きるのか」が、一日を無為に過ごすか意義あるものにするかにつながる。表題「人生の大事」とは何か、今一度自らに問いかけたい

多田野語録 立志・立国

会 員 多田野 弘

表題の立志とは、目的を定めて、これを成し遂げようと志すことであり、立国とは、国を繁栄させることである。かけ

がえのない自分の一生に、いかなる志を持つているかを問うているのである。さて、私の100余の生涯を振り返ってみて、志なるものがあつただろうか。

ある、ある、強いて言うなら「独立自尊」だといえる。この終生を貫いてきた志・気既はどうしてつくられたかを振り返ってみよう。それに大きく影響を与えたのは、少年時代(小・中学11年間)と、青年時代に遭遇した3年余の戦場の体験であつた。

小学1年生を終えた頃、通信簿なるものを渡され母に見せた。品行方正・学力優等・席次1とあり、母の笑顔が見えた。家で教科書を開いた覚えがないのである。これはきつと、父母の英知の血筋を受け継いでいるからだと思つた。その後もずっと、席次1を通した。その後ろるか、私は皆とは少し違ってなければいけないと意識していたようだ。「和して同ぜず」であり、独立自尊の萌芽であつた。

6年生の頃、父から大阪の西野田職工学校へ行くよう勧められた。子供心に職工という名称が気になったが、競争率8倍の有名校と知って入学を決めた。それが私の生涯の仕事につながつたのである。13歳の私を、見知らぬ土地の下宿生活

で、実地訓練を勧めた父の英断を、今でも感謝している。「可愛い子には、旅をさせよ」である。百獣の王ライオンは、産まれた仔を谷底に突き落とし、這い上がつてきたものしか育てないというではないか。

中学を終えると間もなく、陸軍で2年・海軍で3年の徴兵の義務があつた。丁度その頃、海軍では、工業学校の機械科卒であれば、徴兵義務を1年で免じる志願制度が発表された。早く社会で力を試したいと父の了解を得て、昭和14年10月、横須賀海軍航空隊に志願入隊した。

「殴つて教えるのが海軍だ」と聞いていたが、そこは予想をはるかに超える厳しさであつた。「動作が鈍い、気合が入っていない」などと、叱責される都度鉄拳の制裁を頂戴した。普通、3年かかる基礎訓練を、1年でやり遂げるのだから当然だったのである。その間、私は常に隊員の先頭集団にいた。1年後には、自分さえ見違えるほど逞しくなつていた。もしその1年がなければ、今の103歳の長寿と健康はなかつただろう。運命は自分がつくつていくものだと言わざるを得ない

基礎訓練を終えてまもなく、昭和16年10月、矢田部航空隊へ入隊した。それを

待つていたかのように、日米戦争が始まった。矢田部航空隊は搭乗員養成部隊であった。その雰囲気は、開戦の緊張感とは程遠かった。生ぬるい感に我慢がならず、第一線の戦地に出してくれと、上司に申し出た。隊内で私一人だった。

それが、私の戦後80年の生涯の仕事につながる運命の出会いとなった。徴用の貨物船に便乗し、マーシャル群島ルオツト航空基地に向かう途中に寄港した占領直後のウエーキ島での出来事である。海岸には2隻の日本駆逐艦が乗り揚げており、敵前上陸した戦死者の立て札が林立していた。当時の肉弾戦が如何に凄かったかが偲べれたが、目を転じてさらに画期的な場景を目にした。

半裸の米軍捕虜がキヤタピラー駆動の土木建設機を運転し、滑走路の修理をしているのを目撃した。私にはそれらが油圧駆動であることがすぐ分かった。日本が飛行場滑走路をつくるには、すべて人力(ショベルとモッコ)で2・3年を要したが、彼らはこの機械類を用い、2・3か月で完成させることが領けた。凄いと戦争を始めたものだと思った。だが、この思いがけない場景が、戦後の私をつくり、我が社発展のきっかけになっている。

戦後、親子3人で資本金50万円の零細企業を立ち上げた。80年余を経た今日、製品の6割以上を輸出する世界的企業にまで進展した。その主力製品に着目したのが、かつて80年前寄港した、ウエーキ島で目にした場景がヒントになっているのを知る人はいまい。運命は遭遇するものだが、それと共に志をもって、自分がつくっていくものである。私の独立自尊の一生は立志・立国の歩みであったといえるのではないだろうか。

多田野語録
丹田常充実

会員 多田野 弘

表題の丹田とは臍下三寸にありといわれ、臍の下三寸(約十センチ)あたりをさす。全身の精気の集まるところと健康と勇気を得るといわれる。」と記している。「丹田常充実」とは、生きていくうえで丹田が常に充実し、健康と精気で満たされていることが大切であると教えている。平たく言えば、いつも気合が入っていることである。精神を集中してかかる気持ちの勢いがなければ何事もなし得ないことは自明の理であろう。「致知」誌には「丹田常充実は人が事を成す上での土台になるものである」と述べている。

私は「気合が入っている」は誰もが観念的に用いる言葉だが、具体的にどんな時どうすればどのように現れるかわからないのではないか。また、「丹田が常に充実している」とはどういうことなのか。私はそのような理想的な生き方が実現するなら素晴らしいと思う。しかし、人間は四六時中緊張し続けるほど強靱ではない。

それでは具体的にどうすれば「気合が入った」生き方ができるのだろうか。気合は事を成す時に、必要な気力を一点に集中発揮させることである。しかし、それを自分の心にムチ打ち、いくら力んでも無理なことは誰もが経験している。気合とは人間のどこから出てくるのだろうか。

気合は理性や心で考えて得られるのではなく、魂の働きと断言できる。なぜ、心や理性からは気合がつけられず魂のみがそれを可能にしているのか。その主たる原因は、心も理性も自分が生まれてから自らつくったものであり、気合を入れるという力の源泉とはなり得ない。

なぜなら、私たちは生まれて2、3歳頃から言葉を覚え、その言葉と物事を組み合わせることによって考えるようになり、それを蓄積・整理され、理性がつく

られた。しかも、それが心の大部分を占めていた。したがって心は、言葉の持つ合理的にしか考えない不完全性をまぬがれないといえる。涅槃経の言葉にも「心を主とするなかれ。心の主となれ！」とある。

しかも、私たちが生きる上で大事なことは合理的ではなく、感じることによつてしか身につけられないものが多い。愛・信頼・生きがい・責任等重要なことは、理性で考え言葉で表現するのは困難であると知るだろう。すなわち、これらは心ではなく魂でしか扱えないものであると考えている。

大いなるものに生かされていることを知り、命に感謝する魂主導の生き方には自ずと気合が入り、魂がこもっている。命を懸けた戦争の日々から知った魂の存在、奇跡に充ちた戦後80年の生涯がそれを示して余りある。尊い命を自分らしく生きぬきたい。「奮起を促すや切」である。



特攻隊員へのインタビュ
沖繩海上特攻4・7矢矧
飯屋杉雄水兵長

国鉄職員から海軍へ

本籍は鹿児島市吉野町に生まれました。私の所は農業しとりました。農業っていつでも田んぼじゃなくて麦や粟、野菜なん

かつくってました。それを市内まで売りに行くと片道一時間半ぐらいかかるんです。3人の兄のうち一人は亡くなつて残りの二人は兵隊に行つとつたんですよ。私が高等二年の時に就職口がないかと探して昭和17年4月に国鉄に入ったんですよ。東市来駅（鹿児島県日置市 鹿児島

島本線)に駅員として2年間務めたわけです。その時10人ぐらい勤めておりました。最初は貨物を担当してましたが一年ぐらいしたら先輩たちが兵隊にとられていなくなつて切符を売る側にまわりました。駅におりますと出征兵士の見送りなんか来るんですね。時世が時世ですから若い人はみんな兵隊に行かにならんとする時代ですから昭和18年末に志願して19年4月に海軍に行つたんですね。

あのころは若いものは兵隊に行くし婦人会の方はタスキかけて働きに行くし国鉄入つても毎月軍事訓練が国鉄内である。そんな時代でした。

19年4月に佐世保の相浦海兵団に入つて4カ月間新兵教育を受けました。その頃「砲術学校に行く者はいないか」つて募集があつたので横須賀の砲術学校に行き機銃について訓練を受けました。機銃の撃ち方だけじゃなくて弾詰まりや壊れたとき分解して修理の仕方なんかも勉強しましたよ。また機銃そのものの機器に對する構造とかですね。

横須賀に行つて辻堂つて所があるんです。辻堂の海岸に行くと飛行機に吹き流しを引つ張つてもらつてそれを撃つ訓練をしました。この場合は射手と旋手です。この場合二人の息が合わないとあたらな

いです。私は3連装になりましたから射、1、2、1、2、1、2と言われたんですね。1は弾を込める、2は弾倉を片付けたりです。このほかにも上官がおります。私は1番をしておりましたね。弾倉をはめて空になると外して2番が持ってきた弾倉をはめるんです。これは3連装ですが単装なら一人で弾倉はめて撃つことができるから楽ですね。ここで約4カ月訓練を受けて佐世保に帰りま

巡洋艦矢矧へ

佐世保に帰つて毎朝朝礼があるんですがこの時「お前はどこどこへ行く」つて命令が来るんです。私も上官から矢矧へ行けつて命令をもらつて12月だったか1月だったか覚えてないですけど矢矧が佐世保のドッグに入つているときに矢矧に乗り込みました。配置は艦橋前にある左側の三連装機銃です。

矢矧の修理がすんで瀬戸内海に出てそこで撃ち方の訓練を受けました。三連装ですから配置は8人で上等兵曹一人つきますから9人です。下士官はレイテ海戦を戦つていますからあの時こうだったなんて話も聞かさ

れました。この時は招集兵の川口つてのが弾を運んでくるから私とその弾を込めるのが役目でした。指揮者がいて笛の吹き方でどれぐらいの速度で突っ込んでくるかを教えてくれる。それに合わせて旋回して撃つ訓練ですが私は若かったから反応出来ましたけど徴兵で来た人たちは鈍くて可哀そうだったのでですね。撃つ以外にも時として機銃を全部分解して油をつけて拭いたり組み立



軽巡洋艦 矢矧

てたりです。担当した機銃員では私が一番若かったですね。4月に出撃するまでは瀬戸内海で待機ですよ。他の船も動きようがない。ここでは用具の貸し借りで大和にとりに行ったこともあります。矢矧も大きな船ですから風呂もあつたし、2番主砲の後ろに待機する部屋があつて、そこは吊り床もありましたが毛布ひいて寝てました。食事もこの部屋に持つてきてここで食べてましたね。夜8時ごろに酒保開けのラッパがなるんです。ここでは羊羹をよく食いましたね。丸くてゴムに入つてツルツと出てくるんです。矢矧は格納庫に飛行機を2機積んでいて、カタパルトで発艦させて帰ったら着水してクレーンで積りあげるんです。そんな訓練も瀬戸内海でしていました。新兵が制裁食らう時は飛行甲板に並べられてやられてました。私は幸い、士官の従兵に選ばれたんです。だから甲板整列がかかった時でも従兵はいよいよって制裁免れてましたね。士官の洗濯なんか毎日行つてましたから下士官も見てます。だからだいぶ得しました。

沖繩海上特攻4・7 矢矧

大和と沖繩に行くつて話は聞いてないんですよね。士官の従兵ですから食事の世話をしながら士官が話をするのを聞いて

て状況を把握してました。徳山に行つた時かな。「沖繩に行かねばならん」と下士官から聞いたことはあります。他の駆逐艦は作戦について話があつたと聞いたことがありません。6日だったか誰彼となく沖繩に行くことになりました。これは帰つて来られないつて事ですけど、その時はそこまで考えてなかつたですね。

7日の昼頃、偵察機が2機見えたんですよ。その時弾撃つたかな。それからしばらくしてから一気に攻撃機がきました。飯も食つてません。後方でどのような戦闘があつたのかは見えませんが一回、ガシーン！と衝撃があつたんです。多分魚雷でしょうね。それで砲が傾きました。撃ち合いましたけど、前のほうからの攻撃はあまり無かつたです。対空戦闘で戦死したり負傷したりする者はいなかつた。弾を撃つと葉莖が出ますから足でけつて下に落とすんですね。そうしなきゃ邪魔になるでしょ。主砲は応戦しては無いですね。敵機が遠くになれば撃てますけど近くに來たら撃てません。

敵機が爆弾を投下して駆逐艦に当たつて火柱が上がりました。その火柱がひいたら艦の姿はありませんでした。轟沈です。

その後も何発か衝撃があつて甲板と水面が同じぐらいになつた時、海に飛び込んだんです。総員退艦の放送があつたかどうかは聞いてませんが下士官が「飛び込め！」つてやつてましたから私も飛び込みました。矢矧は轟沈ではなくてゆっくり沈んでいったからそれが良かったんじゃないかと思ひます。沈む姿は見ておりません。飛び込んだら少しでも遠くへ離れようと思つて離れましたから振り返る余裕はなかつたですよ。今思つても矢矧はやられたのが後方に集中していたのか私が飛び込んだとき爆弾でやられた形跡とかは見えておりません。

泳ぎたくても泳げない状態です。浮いてるものに掴まつたら敵の飛行機が低空で飛んで来て機銃掃射してくることもありました。そうしたら遠くの方で敵の水上飛行機がおりて向こうの搭乗員を拾つとるのが見えましたよ。漂流しているときに誰かが「大和が沈んだ！」といった声が聞こえましたがこっちも必死で浮いてますから沈んだ姿や火柱はみてません。ただ重油の中を浮いてるんですから真つ黒ですよ。4月の海でした若いせいいか寒いか感じなかつたですね。軍歌を歌つて気分転換というかそんなことしたこともあります自然と消えました。

坊津沖海戦で攻撃にさらされる矢矧



駆逐艦が助けてくれたのは薄暗くなつてからです。信号をパコパコつけてくれたんです。私は信号の事はわからんですけど、信号のわかる者がおったんですね。「おい！来たぞ」って。そうしたらだんだん近くに来てくれて縄梯子を垂らしてくれた。上がってから気力がなかったで

すね。甲板には助けられた重油まみれの兵隊がいっぱいいました。脚絆なんか切つて服も別のをもらつて、ミルクだったと思うんですが一杯飲んでその場で横になつてから記憶がありません。助けてもらつた艦が何だったのかも覚えておりません。佐世保に帰る前に空襲にあつたなんて話

も聞きました。私が私は知らないです。入港ラッパで目が覚めて佐世保に入港したんです。入港した後、横島つて島に隔離されて一週間ぐらいいました。

私がいた機銃では3人ぐらいが亡くなつてますが漂流中に機銃掃射でやられたのか、力尽きておぼれたのかだと思いません。横島に隔離されたとき桜が満開だったんです。その時「鹿兒島に帰りたいな」って気持ちで頭一杯に出てきました。

海防艦第200号にて終戦

「鹿兒島の鴨池飛行場の機銃班の希望がないか」って聞かれたもので手を挙げてそこに決まったんですが夜中に呼び出されて「お前は経験者だから第200号海防艦に乗れつ

て」そう言われて佐世保で海防艦に乗つて舞鶴までいったんです。鴨池なら鹿兒島だからいいなと思つてたんですが海防艦に乗ることになりました。正直がっかりしましたが命令ですから乗らないわけにはいけません。砲術学校時代の同期で矢矧に配置された佐賀出身の山下つてのがおりましたが彼も助かつて一緒に第200号海防艦に配属になりました。私は艦橋前にある三連装に射手として配置されました。

そうしたら舞鶴で機雷にかかったんです。Bが機雷をたくさん撒いてましたからそれにかかったんです。私は前にいて後ろのほうで衝撃があつたのでバツと伏せたんですが部屋にいた人たちは吹っ飛ばされて頭をやられたりして怪我をしていました。幸い沈みはしなかったの大陸に乗り上げる形で下をふさいで浮くようにして、山みたい偽装して終戦までおりました。舞鶴で空襲があつた時、私は射手としてだいが撃ちました。

終戦の知らせは海防艦の中でみんなラジオを聞きました。ああこれで終わつたか。本来は海防艦に配属されて上等水兵になるべきだったんですが矢矧が沈んで経歴表とかないもんですから進級するのが遅れたんです。一緒に行った山下も

進級が遅れて「国のために奉公したのに」って言っていました。それでも終戦の時水兵長になって除隊になりました。

8月末には鹿児島に帰ってきましたが帰ってくる途中は大変でした。広島とかやられとるわけですし、熊本でも鉄橋がやられて汽車が渡れないから回避して西鹿児島駅に着いたときには周りがみんな焼けて桜島が見えませんでしたよ。山形屋、丸屋、朝日銀行なんかは鉄筋ですから焼き残って後は焼け野原です。実家は幸い焼けなかったんですが吉野に陸軍の45聯隊つてのがあって練習所があったんです。その兵隊が民家に来て「何か食べる物はないですか」って訪ねてきたと母から聞きました。それだけ大変な時代でした。

国鉄復帰

矢矧にいたのは4カ月ぐらいですが一緒に弾を撃った仲間、川口さんの事を考えますよ。40過ぎて子供が5人もいて戦死したんだから奥さんは大変だったろうなと思います。食料ない時代ですから百姓が一番です。サツマイモの茎を食べたりフスマ食べたりして過ごした時代ですがうちは農家ですから食べることはできます。今の人には考えられないでしょうね。45聯隊でビルマに行つてた兄貴も生きて

帰ってきました。

鹿児島に帰つて来て仕事が無いもんですから国鉄に行つたら採用してくれましたから竜ヶ峰駅に勤務したら復員ばかりでした。それから鹿児島中央が一番大になりました。今は鹿児島中央が一番大きいんですが当時の鹿児島駅は200人ぐらい職員おつたんです。今は5人ぐらいしかいないけど当時の始発は鹿児島駅からですし貨物も編成も鹿児島駅でした。ここに10何年かおりました。それから乗車券センターに行つて旅行センターに行つて準人駅に行つて最後は日南線の伊比井駅の駅長を勤めました。定年後は駅レンタカーの会社に入つて80まで頑張りました。

矢矧の慰霊祭は昭和50年ごろ、護国神社で新聞を見て戦友会を知りそれから佐世保に行つたり徳之島に行つたり洋上慰霊祭に行つたりしています。原艦長は生きることを考えた人ですから当時としてはすごい人だと思ふんです。4月7日も艦橋前に角材の束が括り付けてありましたし艦長も艦と運命を共にするのではなく助かっていますから。今考えると私は戦死した戦友たちに生かされているんだと思ふんです。短い海軍生活でしたが今思

うといい経験させてもらったなと思ひますがこの前枕崎の慰霊祭に行つた時(平成31年4月7日)勝つても負けても戦争はダメだといいました。終戦から74年です。戦争はやるべきではないと思つております。

インタビュー日時

令和元年5月9日



仮屋杉雄水兵長

人間爆弾櫻花 神雷部隊

722 航空隊

浅野昭典二等飛行兵曹

予科練入隊

戦争もたけなわになったし、私の4年先輩が予科練の11期にいてこの方が昭和17年に学校へきて予科練の口上をぶったわけ。真っ白い予科練の制服着て「お前たちも後から来いよ！」って。そんなこともあったから志願したんです。私は野



昭和20年4月 神之池にて

球やってみましたから体育会系で「かっこいいや。やっちゃえ！」ってもんですよ。この先輩は瀬戸内海の戦艦陸奥の爆発事故に巻き込まれて亡くなりました。

中学3年になってすぐに志願して5月には試験です。5月に筆記試験をしてこれに合格したので8月に三重海軍航空隊へ試験を受けに行っただけです。泊りがけで学科と体力と適性検査を受けて合格したらもう9月には入隊だ。家族から反対

はなかったね。どこでも兄弟が多かったし国のために国のためにつてみんな頑張ってたから志願はいいことだと思っただんじやないの。うちは何にも言わなかったよ。

18年10月1日に松山航空隊へ入隊しました。家を出るときは街のみんなで万歳されておくられましたよ。松

山で生活一変しましたがスポーツやってたから集団生活にはつよかったね。この時松山空にはゼロ戦なんか結構ありましたよ。これで訓練受けてたのは甲10期生で私らは休みの時に行っていました。

ここでの13期生の訓練は海軍魂を打ち込まれる教育で飛行機に対する教育は何もない。入って2か月後に操縦と偵察とに分かれるわけ。一応、希望はきかれるけどみんな操縦志望だよ。でもどうやって振り分けたかわかんないけど操縦と偵察に振り分けられた。振り分けられると訓練の内容も少し違ってくる。偵察だと無線操縦はモールズと手旗ぐらいだったね。後、氣象学ね。機上整備は無かったな。

これを午前中に受けて午後からは体力づくりです。休む間もないよ。なんせ1年2カ月かかるところを8カ月で終わらせなきゃいけないんだからね。しかも私が一番若くて14歳で背も小さい。同期は中学卒業してるもの居るし二十歳ぐらいのものいるわけですから大変だ。でも体力系の訓練だとみんながかばってくれるんです。毎日がつらいんだけど自分で志願して行ったんだからそれを乗り越えないと一人前になれないからみんな頑張ったさ。19年3月頃からグライダーの訓練をう

けましたが、みんなで引つ張って飛ばす人力です。だから高度もせいぜい2メートルから3メートルぐらいなものですよ。着陸も遠心力を利用してスムーズに着陸するんですがカンミたいなもので説明は難しいな。この訓練で予科練での訓練は終わりです。5月に松空での基礎訓練を終え卒業となりました。

5月26日、諫早航空隊へ入隊し赤トンボでの訓練になりました。後部に助教が乗っていて最初は助教の操縦で感覚を養う訓練です。練習生6,7人に対して助教が1人つきます。適性がないと判断されて脱落して行った者もいます。ずっと飛んでるんだから迷ったらダメ。瞬時に判断できないと。6月7月と諫早にいました。ここはゼロメートル地帯で8月以降は海面が上がってきちゃって訓練できないから佐世保海軍航空隊へ転勤になりました。ここでは水泳訓練をやりましたね。松山に10月に入ったから寒くて水泳なんかできないから。カッターはやりましたけどね。泳げない奴もいるわけだよ。そんな奴は教員が腰紐付けて引つ張って泳がせるんだ。諫早から赤トンボも教官が操縦して持ってきてた。ここにいたのは2カ月ぐらいいかな。9月には佐賀の目達原に移動になりました。ここは陸軍

の大きな飛行場でその一部を間借りして訓練していました。ここでは大きな橋があつてその下を赤トンボでくぐるなんてやりましたね。私達の技術じゃできないんだけど後ろから面白がつて「やれ！」って言ってくるからさ。その時の操縦は教員なんだけど、その飛行機に乗ってるわけですから「こんなもあるんだ」という事さ。3機編隊で飛んでる時、後続の1機が高圧線を切っちゃったことがあつて、飛行場の端に緊急着陸してさ、25メートルぐらいの送電線が足に引つかかかってたんだけど、これで佐賀県と熊本の一部が停電だ。海軍がやったつてすぐには別たそうだ。

ここも田んぼの真ん中ですが小さな駅があつて飛行訓練の時に列車が駅に入ってくると教員が「お前手を放せ！」って急降下して列車の横を通るとみんなが手振ってくれるんだ。でも隊に帰つたら「何時何分に低空飛行した飛行機があつた！」なんて報告が隊に上がつてその教員は罰金くらいました。だいたい教員のグループがきまつて予科練の先輩もいれば実戦帰りの人もいるなかでいい教員に当たれば勉強になるつてことだ。

目達原でも生活は駆け足で30分ぐらいの所に神崎小学校があつてその講堂で

寝泊まりしてました。台風の夜に空港に行けつて命令があつて何するんだと思つたら赤トンボが風に飛ばされないようにみんなを押さえろつてさ。陸軍の飛行機はみんな格納庫に入れてあるけど我々のは杭に縛つてあるだけだから雨風の中みんなで押さえて飛ばされないようにするんだ。それでも飛行場の端まで流された機体もあつたね。

神雷部隊配属

20年1月12日に神雷部隊へ配属されました。特攻は始まつてたし、毎日そんな訓練受けてたからどうせ行くなら早くいっちゃえつて思つてました。特攻への志願は諫早空を卒業する間際で12月末頃。よく言う◎、○、白紙つてやつだったね。

訓練を受けてるものは戦闘も偵察も陸攻もいるわけで80名ぐらいが戦闘で戦闘だけが特攻志願を聞かれた訳です。12月末に戦闘のものだけ集められて特攻の部隊があるけどどうするかをきかれたので私は◎を書いて出しました。ここで○を書かなかつた者もいてそのものはここに残つたんですが沖繩戦の時、赤トンボで特攻戦死した者もおります。1月10日ぐらいに神雷部隊への配置を聞いて茨城県の神之池に向いました。この時16歳になつたばかりの時です、先に諫早空の偉い人が

行つて「お前たち良く来たな！」と出迎えてくれました。ここでの訓練は滑空訓練でここで初めて零戦に乗りました。

最初に乗った零戦は複座の奴で高度は2000メートルを目標にその日の天気や雲の高さによつて2500まで上がる時もありました。これを1週間ぐらいやって次に乗ったのは21型です。角度25度ぐらいで降下するのは何とかできるけど翼がガタガタ震えて大変だ。

櫻花を初めて見たのはこの部隊に来て一週間か二週間ぐらいした時かな。「掩体壕にあるからお前たち見に来い」って見に行つて「これがお前たちが乗る櫻花特攻機だ。頑張ろう」っていわれた。先に来てた教官が3人か4人いて待遇もいい。いじめなんかなかった。毎日が穏やかだった。休みの日は鹿島神宮しかないから近所の農家へ行つて飲み会だ。その時俺は16だから飲みやしないしね。俺は飲めないから鹿島神宮近くの旅館へ行つてなにするでもなく気持ちを落ち着かせてるつていうかのんびりさせてもらつた。街の人も特攻隊員だつてわかつてるからよくしてくれたさ。3月4月と先輩が次から次へと鹿屋へ行つちやうから毎晩飲み会だ。「お前たちも後から来いよ！」つて。その時見送る心境なんてこれと言つ

てないね。死ぬための部隊だし、みんな死に行くんだから、今どうだったかなんて聞かれても何も思わなかつたんじゃないかな。

櫻花滑空の時は「櫻花搭乗！」つて言われる。そうしたら下着から何かから新しいものを一式もらえる。いっどうなつちやうかわからないからね。それで陸攻機の隊員へ「よろしくお願いします！」つて挨拶しに行つて初めて陸攻機に乗つたんだ。乗り込んで「お前、ここに立ってる！」

操縦席の後ろに立つて前見ながら高度3000。その日の風向きによつて上がり方が違うからその日は銚子上空で旋回して向きを変えて進行方向をとつて「下へ移れ！」ここで櫻花の風防を開けて乗り込んだら操縦桿がワイヤーで固定されてそれを外して上の人に渡すわけ。櫻花の計器は簡単なもので高度計、旋回計、コンパスがあつて、後部のロケットは1, 2, 3のつまみを入れてスティックのスイッチを押すと点火する仕組みです。

陸攻機は時速200キロぐらいで飛んで、そこから落とされると櫻花は目方があるし浮力が無いから300メートルぐらい一気に落ちちゃつてそこから操縦できるようになる。弾頭には爆弾の代わりに砂が入つて後ろにも入つた。こ

れで一トン少々の重さがあつて実戦の時は爆弾装着して2トンになる。エンジンは無いけど風を切る音がシューツと聞こえてきて操縦も自在なんだ。一回しか乗つたことないけど乗つた人にしかわからないな。今考えても16歳でよくやつたと思ふよ。利根川上空を通過して神之池上空をぐるつと回つて降りる所を決めて時速200キロまで落として高度一メートルまで持つて行つて第二飛行場に着陸だ。飛行場つていつたつて草っぱらだけだね。櫻花はそれ一回だけ。



櫻花を抱いて出撃する一式陸上攻撃機

神之池には7月までいました。てつきり鹿屋に行くものだと思っていたんだけど722航空隊ができたので「櫻花に乗った者は比叡山へ行け」って命令が出たので23日に比叡山へ行きました。本土決戦だったのは薄々聞いてたからそれだろうと。後から聞いたけど鹿屋の部隊は6月23日に沖繩がおちてから小松に引き上げちゃった。この段階で誰が突っ込んだのかもわからない。わかったのは戦後になってからです。

722航空隊へ

比叡山の下に滋賀海軍航空隊があつて、ここに一週間寝泊まりしてここに800メートルぐらいの全く使われていない滑走路があつた。比叡山からの横風であおられちゃうから赤トンボで普通の技術だと上がれないわけ。だからそこは使われてなかった。ここに木更津から零戦を4機だったか6機を持って行って、赤トンボは島根の第二美保にあるから5、6機を空輸して私たちの訓練に使うことに決まりました。一週間ぐらい後に比叡山の金本中堂が泊まれるようになったからそこに移動になりました。滋賀空に飛行機を空輸したのは私達だけでなく後から来た連中にも乗せないといけない。櫻花43型、複座の二人乗りのやつです。経

験積ませないといけないからでしょうね。

金本中堂に行ったけどやることは滋賀空に降りて行って訓練です。肝心の櫻花もきてないしね。比叡山ロープウェイを使って櫻花を引き揚げ、滑空用のレーンを伝って大阪湾に上陸する敵艦に特攻攻撃をかけるってなつた。そんな話を聞いたのかどうか。仲間との話でそう理解したのかわかりませんが、比叡山からならそれしかないから。

8月15日も比叡山で迎えました。金本中堂の前に並んで終戦の放送を聞いたんだけど山の上だし雑音が混じって本当に分かんなかった。後日、2、3日後かな。終戦だつてわかつたのは。心境は「終わった。俺は死ななかつた」だね。負けたなんて誰も言わないし。

終わったからまず帰れてことで帰ったんだけどどうやって生活していいやら。親は「よく帰ってきたな」って言ってくれたけどね。金はあつた。当時の金で2000円ぐらいあつたかな。でも金融封鎖で一人いくらしか持てなくなつた。そんなこともあつた。帰って3年後20歳になつたから自動車の免許をとつたよ。何かして食わなきゃいけないから資格としてとつたんだ。

松山空にいたもので櫻花に乗ったことがあるのは20人しかいません。零戦は100人ぐらい乗っています。16、17で海軍入つて零戦のつて櫻花にもりました。これは今だから胸を張って言えることです。

インタビュー日時

平成30年1月26日

参考文献

神雷部隊始末記
特攻最後の証言



浅野昭典二等飛行兵曹

金冠山山頂から見た富士山



顔を上げてと目の前に富士山の秀麗な姿が飛び込んできた。この日は雲一つ無い天気です。真つ青な空に、雪景色

連載山ある記26

静岡県「達磨山」
会員 池田 康博

富士山の眺望が、素晴らしいと言われている場所の一つに、伊豆市の「だるまやま高原レストハウス」がある。

しかし、これを山頂から見たらさぞかし絶景だろうと、2月下旬、このレストハウスの側にある登山口から、金冠山と達磨山山頂を目指した。金冠山まで1.7km、達磨山まで4km、往復のコースタイムは3時間5分である。

朝9時15分に登山口を出発。防火帯のように広い芝生の山道を、30分登って達磨山との分岐点に着いた。ここを右折して金冠山に向かう。階段の山道を少し登って、9時53分に標高八百十六mの山頂に到着。

顔を上げてと目の前に富士山の秀麗な姿が飛び込んできた。この日は雲一つ無い天気です。真つ青な空に、雪景色に、雪景色

達磨山山頂



の富士山、そして青く穏やかな駿河湾が何とも言えず美しい。かつて登った沼津アルプスも眼下に見える。富士山の手前には愛鷹山が、左手には雪を頂いた南アルプスが連なっている。
絶景を堪能した後下山開始、先ほどの分岐点を通して戸田（へた）峠まで下りた。ここは西伊豆スカイラインが通っていて、その駐車場の一角に登山口がある。10時16分に次の達磨山に向けて登山開始。

この登山道もほとんどが階段で、歩幅や高さが合わない、しかも、霜柱が溶け始めて、じゅくじゅくの階段が延々と続く。やっと着いた頂が小達磨山で、今度は下りの階段を、達磨山を正面に見ながらスカイラインまで降りた。そして車道を少し上って、達磨山に取り付く登山道の階段がまた始まった。
山の斜面は一面に低い笹が生い茂っていて、景色も見晴らしも良い。背後の富士山や周囲を眺めながら、11時15分、やっと標高九百八十一mの達磨山山頂に着いた。
遮るもののない360度の絶景である。金冠山で見た景色に加えて、伊豆半島の山々に、特徴的な大室山、その向こうの相模湾まで見渡せる。きつい階段を登ってきた甲斐があったというものだ。狭い山頂部は、船原峠方面から登ってきたガイド付き団体登山一行で一時占拠？されたこともあり、下山は11時40分に開始した。達磨山を下ったところで昼食を摂り、小達磨山、戸田峠と、元来た道に戻って、「だるまやま高原レストハウス」に着いたのは13時55分であった。
因みに、達磨山は、伊豆半島に3カ所ある一等三角点の山で、今回で三カ所全登ったことになった。
また、この日は大室山で「山焼き」が行なわれた。丁度昼食中の時で、まるで火山の噴煙のような、大量の煙がどつと高く立ち昇る様子は、遠くから眺めても壮観であった。達磨山山頂から見た大室山は、枯れた茅の茶色であったが、瞬く間に真つ黒な山となった。
(令和5年2月26日)

顕彰譜 (15)

会報134号から始めた特別攻撃隊全史第二版の顕彰譜の
ご紹介第十五回目です。

伊舎堂用久中佐と隊員の顕彰碑

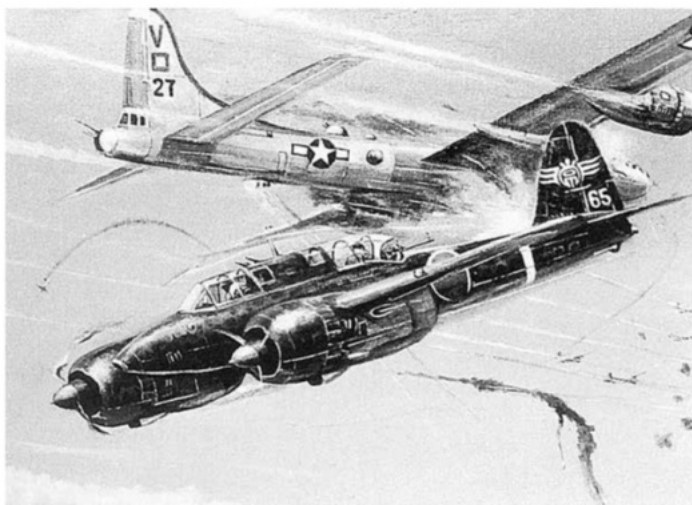
陸軍航空



所在地 沖縄県石垣局
建立 平成25年2月15日
例祭 毎年3月25日(伊舎堂隊特攻の日)

陸軍航空

B-29 体当り特攻



2式複戦
一万メートルで来襲するB-29を撃墜する為、我が戦闘機は重い装備を一切外し体当り戦法をとった。



飛行第4戦隊野辺重夫軍曹高木伝蔵兵長
19年8月20日戦死
所在地 北九州市八幡区大膳



飛行第56戦隊浦井俊郎中尉
20年1月3日戦死
所在地 新潟県上越市高和町



飛行第4戦隊山本三男三郎少尉の歌碑
20年4月18日戦死
所在地 下関市小月町蓮成寺



第1練成飛行隊山本敏彰中尉
20年4月7日戦死
所在地 埼玉県上尾市原市
戦後三角隆三氏他地元の人達が墜落場所に建てたが、宅地化や道路化のため二度移築し、現在は子息隆氏の敷地内にある

航空遺産

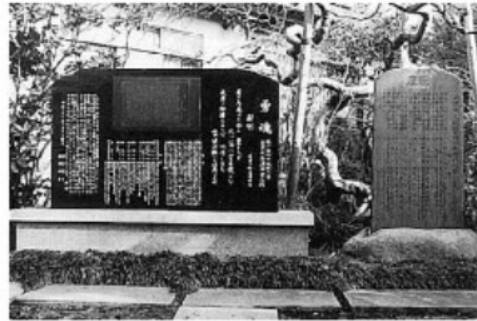


3 式戦



飛行第4戦隊村田健吉
 20年5月7日戦死
 所在地 大分県中津市八面山公園内

図説は戦死時のもの
 これ以外に休当たり戦死した者は少
 くないが、ここには何のあるものだけを
 掲げた。



飛行第47戦隊吉沢平吉中尉
 20年2月10日戦死
 所在地 東京都武蔵野市吉祥寺東町大法師寺



飛行第56戦隊中川裕中尉 20年6月26日戦死
 所在地 三重県久居市元町
 ここは遺体落下地点で機体落下地点には別に碑がある

逋信省航空局航空機乗員養成所の碑

仙台航空機乗員養成所

昭和62年9月12日



仙台市若林区白萩町国分尼寺内



民間のパイロットを養成するための「航空機乗員養成所」は逋信省航空局の管轄に属し、次の一三箇所にあつた。() 内は創立年を示す

仙台(13)、米子(13)、新潟(16)、熊本(16)、印旛(16)、京都(17)、岡山(17)、都城(17)、古河(17)、筑後(19) 以上は陸軍系 愛媛(17)、長崎(17)、福山(18) 以上は海軍系

ここを卒業した者は陸海軍の教育機関で若干の補備訓練を受けて予備役の下士官に任ぜられ、その数は約三、二〇〇名であつた。

戦局が苛烈になるに及び殆どが召集されて軍務に服し、一六二名が特攻隊として戦死している。

戦後それぞれの養成所の跡、または緑の深かつた場所に慰霊碑が建立されたもの六件をここに紹介する。

愛媛航空機乗員養成所

昭和51年11月3日



特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部

● カラコロと 素足に下駄の 祭り道

● 祭囃子 浮力に乗って 闊歩かな

● 色褪せし 祭衣の躍動す

● 祭後の 朝ひびき交う 漁船かな

松花江

● 海に征く 君の瞳に 桜あれ

● 願わくば 征く道へだてる 雨よ降れ

淳

● 株高だ だけど安いぞ 俺の蕪

● 春がすみ 目までもかすむ 花粉症

ネコ



広 告

(サンケイツアーズからのご案内)

神風特別攻撃隊出撃 80 周年慰霊祭 参列ツアー

昭和19年(1944年)10月、ルソン島北部のマバラカットで神風特別攻撃隊が結成されました。敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊と命名された部隊のうち、敷島隊が、同月25日、同飛行場から出撃しました。関行男大尉率いる敷島隊5機は、米海軍「セント・ロー」を撃沈するなど大戦果を挙げるとともに、5名の若き命が南方の海で散華しました。国家存亡の危機に対し、たった一つしかない若き命を祖国に捧げた英霊に対し、現地で鎮魂と感謝の誠を捧げる慰霊祭が斎行されます。

今年の慰霊祭は出撃80周年にあたることから、例年以上の大きな形で斎行されるべく、準備が進んでいるようです。

つきましては、特攻隊戦没者慰霊顕彰会会員様をはじめとした皆様に、当慰霊祭に参列いただける特別ツアーを実施し、より多くの方に慰霊していただきたいと存じます。ただ今、各地との調整を行っておりますため、正式な募集は後日、改めてご案内申し上げます。

記

旅行期間：成田空港発着 令和6年10月23日(水)～27日(日)4泊5日

：関西空港発着 令和6年10月23日(水)～28日(月)4泊6日

利用航空会社：フィリピン航空 エコノミークラス(往復)

行程概要：10月25日(金)のマバラカット市クラーク地区での慰霊祭を中心としたマニラ・アンヘレス市内の観光を含めたツアーです。

マニラ2泊・クラーク2泊

往路 【10月23日(水)】

成田空港(9:30発予定)→PR431便→マニラ空港(13:50着予定)

関西空港発(9:50発予定)→PR407便→マニラ空港(12:50着予定)

復路 【10月27日(日)】

マニラ空港(14:40発予定)→PR432便→成田空港(20:10着予定)

【10月28日(月)】※27日は出発までホテルでお休みいただけます。

マニラ空港(03:40発予定)→PR408便→関西空港(8:55着予定)

後援：公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

フィリピン政府観光省

実施旅行会社：産経新聞開発株式会社 サンケイツアーズ

〒556-0017 大阪府大阪市浪速区湊町2-1-57 難波サンケイビル7階

観光庁長官登録旅行業第1554号 (一社)全国旅行業協会正会員

TEL：06-6633-1515 (平日9:30-17:30/土日祝休み)

事務局からの報告等

一 令和5年度 事業報告書

1 慰霊事業

令和5年度は、5月連休明けに新型コロナウイルスが5類に変更になり、各地の慰霊顕彰活動もコロナ以前の状態に徐々に戻り始めた。しかし、感染防止対策を急に解除されることはなく、主催慰霊祭及び各地の慰霊祭も様子を見ながらの開催となった。

(1) 第44回特攻隊全戦没者慰霊祭

令和5年3月25日(土) 11時より、靖國神社に於いて、一般の会員も含めて、例年並みの昇殿参拝を行った。ただし、懇親会は感染防止のため中止した。

(2) 第72回特攻平和観音年次法要

令和5年9月23日(土、祝) 秋分日の午後2時より、世田谷山観音寺に於いて、一般会員も含めて神仏習合の法要を行った。こちらも感染防止の観点から、直会を取りやめた。

(3) 各地慰霊祭への参列等

規模の縮小や中止、あるいは、慰霊祭のみで直会を行わない等、各地で対応は異なったが、年度当初予定の50か所の参列予定に対し、実際に参列できたのは44カ所、他は玉串料や供花を奉納した。

(時期)	(慰霊祭名)	(場所)	(参列代表者)
3月28日	特攻勇士之像慰霊祭	宮崎縣護國神社	石井専務理事
4月7日	戦艦大和追悼式	広島県呉市	及川評議員
4月8日	鹿屋特攻隊戦没者慰霊祭	鹿児島県鹿屋市	金子編集長
4月16日	出水市特攻碑慰霊祭	鹿児島県出水市	石井専務理事
4月17日	偕行社慰霊祭	靖國神社	岩崎理事長
4月22日	春季例大祭	靖國神社	岩崎理事長
4月10日	万世特攻隊慰霊祭	鹿児島県南さつま市	福江評議員
4月23日	特攻勇士之像慰霊祭	沖繩縣護國神社	石井専務理事
4月29日	秋田県特攻隊招魂祭	秋田市	倉形評議員
4月30日	特攻勇士の像奉納	高知縣護國神社	藤田会長
5月3日	知覧特攻隊慰霊祭	鹿児島県南九州市	石井専務理事
5月13日	特攻勇士之像慰霊祭	福岡縣護國神社	岩崎理事長
5月14日	特攻殉国碑慰霊祭	長崎縣川棚町	福江理事
5月21日	特攻勇士之像慰霊祭	京都靈山護國神社	原島評議員
5月21日	三重航空隊慰霊祭	三重県津市	金子編集長
5月21日	国分基地特攻隊員慰霊祭	鹿児島県国分市	石井専務理事
5月21日	指宿哀惜の碑慰霊祭	鹿児島県指宿市	岩崎理事長
5月21日	筑波海軍航空隊慰霊祭	つくば市	福江理事
5月26日	特攻勇士之像慰霊祭	熊本県熊本市	原評議員
5月27日	指宿哀惜の碑慰霊祭	熊本県熊本市	長瀬評議員
5月27日	義烈空挺隊慰霊祭	土浦駐屯地	原島評議員
5月28日	予科練戦没者慰霊祭	靖國神社	岩崎理事長
5月28日	大東亜慰霊協慰霊祭	山形県鶴岡市	原評議員
7月9日	山形回天錨地藏慰霊祭	山形県鶴岡市	岩崎理事長
8月9日	特攻勇士之像慰霊祭	三重縣護國神社	岩崎理事長
8月15日	全国戦没者慰霊大祭	靖國神社	岩崎理事長
8月15日	十三塚原特攻慰霊祭	鹿児島県霧島市	國分評議員
9月3日	戦没学徒慰霊祭	広島護國神社	及川評議員
9月4日	楠公回天祭	岐阜県下呂市	宮本評議員

(時期)

(慰霊祭名)

(場所)

(参列代表者)

9月11日	高野山空挺慰霊祭	和歌山県高野町	岡部副理事長
10月1日	鉾田陸軍飛行学校慰霊祭	茨城県鉾田市	國分評議員
10月8日	特攻勇士之像慰霊祭	茨城県護國神社	岩崎理事長
10月10日	特攻勇士之像慰霊祭	長野縣護國神社	石井専務理事
10月14日	明野忠魂塔慰霊祭	三重県明野駐屯地	倉形評議員
10月18日	秋季例大祭	靖國神社	岩崎理事長
10月18日	秋季慰霊祭	千鳥が淵墓苑	岩崎理事長
10月21日	串良基地慰霊祭	鹿児島県鹿屋市	石井専務理事
10月22日	特攻勇士之像慰霊祭	大阪護國神社	國分評議員
10月25日	神風特攻戦没者慰霊祭	愛媛県西条市	宮本評議員
10月25日	永代神楽	靖國神社	岩崎理事長
10月25日	神風特攻慰霊	フイリピン	鮎田理事
10月29日	能代特攻像慰霊祭	秋田県能代市	倉形評議員
10月31日	特攻勇士之像慰霊祭	埼玉縣護國神社	岩崎理事長
11月12日	回天慰霊祭	山口県周南市	高松評議員
11月23日	若潮慰霊祭	香川県小豆島	石井専務理事

2 会報の発行・広報

公益誌としての機関誌・会報「特攻」143号〜147号の5ヶ号を発行し、会員・協力団体及び希望者に配布・頒布した。また、会の名称の普及、及び、若手会員の募集を狙って自衛隊向けの広報紙に4回広告を出すとともに、SNSを活用した広報のために、FBやHPの更新を行った。

等 3

調査研究・特攻関連出版物等の作成

特攻隊及び特攻隊戦没者等に関する事

項を調査・研究することにより、特攻に関する史実を伝承する。令和5年度は、担当理事を中心に調査研究グループの会合を開き、資料収集と調査研究方向の意見交換を行った。今後は、各地の関連資料館等との連携を密にし、収集した資料等の広報誌への掲載や、出版等を通じて、特攻に関する史実の伝承に寄与したい。

奉納事業

4 護國神社への「特攻勇士之像」建立

令和5年度は、高知縣護國神社への奉納が出来、全52か所の護國神社等に対す

る奉納特攻像は22体となった。令和6年度は、岩手縣護國神社への奉納が可能と考える。今後も引き続き他の護國神社等への説明を継続し、多くの国民が、特攻像を見ることにより、特攻隊員に対する慰霊・顕彰の気持ちを持てるような環境作りに努力したい。

5 会員の動向

令和5年度における新規入会者は年の前半までコロナの影響で、役員、会員による勧誘に制約があったため41名にとどまった。一方、退会者は会費未納3年による会員資格喪失と逝去等による退会も併せて66名となったため、令和5年度末会員数は昨年度より25名減少し、1,111名となった。

会員の減少傾向は、会の年齢構成から見れば今後も厳しい状況が継続するものと思われるが、会の魅力化による会員のつなぎ止めに努めるとともに、役員等を中心として、特に若手会員の獲得を重視して募集業務に精励し会勢の挽回を期したい。

二 寄付者御芳名(敬称略)

(令和6年1月1日〜3月31日)

(単位千円)

一〇〇〇 多田野 弘 三〇〇 御船 滋
二三 島津 幸生 二二 遠山三千代

令和6年度収支予算書 (損益ベース)

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	13,814,000	14,970,000	△ 1,156,000	
② 特定資産運用益	475,000	130,000	345,000	
③ 年会費	2,100,000	2,740,000	△ 640,000	
④ 慰霊事業益	1,800,000	1,800,000	0	
⑤ 出版事業益	50,000	20,000	30,000	
⑥ 広報事業益	0	0	0	
⑦ 受取寄付金	2,100,000	2,000,000	100,000	
⑧ 雑収入	0	0	0	
経常収益計	20,339,000	21,660,000	△ 1,321,000	
(2) 経常費用	0			
① 事業費	17,591,200	18,284,000	△ 692,800	
慰霊事業負担金	820,000	820,000	0	
像制作負担金	0	2,060,000	△ 2,060,000	
発送等委託費	1,500,000	1,500,000	0	
他団体助成金	1,700,000	2,100,000	△ 400,000	
役員報酬	180,000	180,000	0	
給料手当	4,200,000	3,480,000	720,000	
福利厚生費	540,000	360,000	180,000	
旅費交通費	3,420,000	2,700,000	720,000	
通信運搬費	288,000	522,000	△ 234,000	
会議費	180,000	120,000	60,000	
光熱水料費	72,000	72,000	0	
消耗品費	360,000	480,000	△ 120,000	
賃借料	2,160,000	2,220,000	△ 60,000	
臨時雇賃金	840,000	660,000	180,000	
印刷製本費	660,000	540,000	120,000	
減価償却費	84,000	120,000	△ 36,000	
諸謝金	250,000	200,000	50,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	337,200	150,000	187,200	
② 管理費	8,880,800	7,736,000	1,144,800	
役員報酬	120,000	120,000	0	
給料手当	2,800,000	2,320,000	480,000	
福利厚生費	360,000	240,000	120,000	
旅費交通費	2,280,000	1,800,000	480,000	
通信運搬費	192,000	348,000	△ 156,000	
減価償却費	56,000	80,000	△ 24,000	
消耗品費	240,000	320,000	△ 80,000	
印刷製本費	440,000	360,000	80,000	
会議費	120,000	80,000	40,000	
光熱水料費	48,000	48,000	0	
賃借料	1,440,000	1,480,000	△ 40,000	
臨時雇賃金	560,000	440,000	120,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	224,800	100,000	124,800	
経常費用計	26,472,000	26,020,000	452,000	
当期経常増減額	△ 6,133,000	△ 4,360,000	△ 1,773,000	
2 経常外増減の部	0	0	0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
貯蔵品資産受入	0	0	0	
資産計上	0	0	0	
投資活動収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
特定資産への振替	0	0	0	
貯蔵品除却損	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 6,133,000	△ 4,360,000	△ 1,773,000	
一般正味財産期首残高	291,802,960	288,273,507	3,529,453	
一般正味財産期末残高	285,669,960	291,802,960	△ 6,133,000	
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	
一般正味財産から振替	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	285,669,960	291,802,960	△ 6,133,000	

七	中島省治	七	高須と志江	二	塚原正	二	平田重夫		三宅佑希子
七	長岡暢俊	七	尾中信仁	二	梶原榮利	二	村川豊	埼玉	石黒昌子
七	武安俊隆	七	阪井泰彦	二	田崎鉄男	二	小島一成	北海道	松本忠幸
七	福島八郎	七	神林千祥	二	森本益夫	二	大瀧成紀	三	新入会員名簿(敬称略)
七	上野むつ子	七	中熊真一	二	大林喜一	二	伴野富夫	一	ロバート・ママダ
七	名和まどか	七	星野明彦	二	呉正男	二	山本健雄	一	飯田隆夫
七	堂坂清	七	宮倉崇	二	小森正明	二	中川望	一	山田元
七	沖周治	七	天野弘子	二	濱田公一	二	城ヶ端専	一	谷口智美
七	武谷孝生	七	氏家康宇	三	相田博司	三	石川武	一	松本忠幸
七	鮫島美知子	七	中村光太郎	三	山中進	三	岩本哲男	一	長谷川和弘
七	斉田孝	七	田村豊彦	三	正根恵二	三	横山モナ	一	奥谷知枝美
七	浜田義文	七	岩館芳雄	三	澤田江里子	三	梶原武	二	小林由貴子
七	木村圭作	七	平川善人	三	佐野賢治	三	池田守	二	田中襲
七	今井敏	七	百目鬼清	三	田辺さだ子	三	金子浩	二	中山哲
八	椿孝則	七	田尻利重	三	岩浅博之	三	柄澤寛之	二	山本寛
一〇	中村富美代	一〇	早瀬登	五	小林一朗	四	赤股真理子	二	黒川壯之介
一〇	大原江伸	一〇	海沼義弘	五	(有)イチカワ北海食品	五	南方弘	二	安藤佐智子
一〇	大鳥美緒	一〇	久住浩文	五	今泉幸男	五	高橋芳幸	二	高橋富二
一〇	齋須将	一〇	池田高雄	五	秋元光広	五	竹本佳徳	二	田中臣二
一〇	紺野真理	一〇	馬場しづ子	五	伊藤元夫	五	安永真理子	二	桜井實
一〇	竹野好展	一〇	多田剛	五	水気博美	五	林佐吉	二	中田晃文
一〇	太田恵淳	一〇	石井令彦	五	佐藤義信	五	橋本亀	二	舘本勳武
一〇	降矢達男	一〇	原島淳子	五	加藤拓	五	加藤千佳	二	森山敏明
一〇	知覧特攻慰霊顕彰会	一〇	杉山蕃	五	島田正登	五	酒見奎一	二	小野好永
一〇	茂木尚	一〇	上西幸子	五	清水典郎	五	白田智子	二	土橋猛
一二	深水彪	一〇	藤原英生	五	湯澤利道	五	白田正勝	二	野村朋美
一五	吉田三郎	一三	澤知樹	七	明石英次	五	広田	二	佐藤一志
二〇	東元良愷	一五	知樹	七	ノブレス株式会社	五	佐藤一志	二	石井敏子

三 新入会員名簿(敬称略)
(令和6年1月1日〜3月31日)

埼玉
東京

神奈川

愛知
大阪

兵庫
香川

会員計報(敬称略)
ご冥福をお祈りします。

千葉

東京

福井

三重

大阪
鹿児島

高山 健男
相田 博司
黒川 和樹

竹田 恒智
金子 浩
佐藤 隆徳

津田 竜二郎
伊吹 笑美子
海沼 義弘

佐藤 睦子
中村 敏弘
長谷川 輝人

藤田 泰孝
藤田 みゆき
奥谷 知枝美

星加 京子
石川 武
若木 重忠

赤股 真理子

市川 雄一 (5・11・10)
村越 登祐 (6・1)
藤野 洋政 (5・7・29)

鳥海 周一 (6・2・23)
野村 利幸

西尾 栄吉 (6・1・25)
久田原昭夫 (6・1・1)

市来 徹夫 (5・9・8)

会員ご入会のご案内

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」

当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のごことは忘れません。有難うございます。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

○当顕彰会の主な事業

- ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰(他団体への参加を含む)
- ・会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
- ・特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他
- 年会費
- ・一般会員 3000円
- ・学生会員 1000円
- URL: <https://tokkotai.or.jp>
- QRコード



ご投稿についてのご案内

ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
 - 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
 - 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
 - 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。必要な場合はその旨お書き添え下さい。
 - 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
- 6、投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。
- T10210072
東京都千代田区飯田橋一丁目5-7
東専堂ビル2階
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
電話 03-5213-4594
FAX 03-5213-4596
E-mail jimukyoku@tokkotai.or.jp